

UBE Exhibition NEWS LETTER

2019.12.1.経済とテクノロジー

講演会
クラウドファンディング(モーションギャラリー) 大高健志



SDGs 未来都市として選定されている宇部市。持続可能な活動を目指し、宇部エキシビジョンもSDGsのテーマに合わせた展示プログラムを展開しています。第4回目となるトークイベントでは「経済とテクノロジー」をテーマに、モーションギャラリー代表の大高健志さんをゲストに迎え、クラウドファンディングを活用した、企画づくりや資金集めのコツなどを学びました。



「投資」が生まれたのは コロンブスの大航海時代

「投資」という考えが始まったのは、一説では、コロンブスの大航海時代と言われています。船で貿易に行き、港に帰ってくることができれば莫大な利益が得られる時代でした。ただし、当時の航海技術だと5割は沈没していたため、ハイリスク・ハイリターンでした。そこで、何人かで一隻を買い、船長が名乗りを上げることでリスクを分散しました。これが「投資」の始まりです。成立するかどうかは、港に船が戻ってこれるのかという単純なこと。スタートとゴールが明確であり、投資家と実行者の意思統一が図れています。

その後、船を束ねる「会社」という概念が生まれ、船長という個人への投資から、会社への投資へと構図が変わっていきました。そして現代の投資基準は、個人が良いと思ったものよりも、市場

経済が良いと思っているものへと投資する方が儲かるようになり複雑化しています。



いまのお金の流れを変えたい だからクラウドファンディングサイトを設立

頭金1,000万円が必要なプロジェクトがあったとします。実行するためには、金融機関や投資家にプレゼンをしますが、ここで融資を受けられないと頓挫してしまう現状があります。特に、映画や芸術など、ソーシャルグッド(社会的に良い影響を与える活動や製品)な側面をもったものは、投資されにくいものが多いです。ここで問題なのが、実行者が本当に届けたい相手が求めているも、当事者でない投資家がNoといえれば届くことができません。

クラウドファンディングでは、直接届けたい相手から投資してもらえます。先に資金が入ってくるのでリスクヘッジもできます。クラウドファンディングが達成できなく資金が集まらなかったとしても、それは、まだ生活者が求めていることではないというも分かるので、改善する余地があるともいえます。

都会からはじまる新しい生き方のデザイン。共生革命家、ソーヤー海によるアーバンパーマカルチャーガイド出版します!

都会からはじまる新しい生き方のデザイン

コロンブス 371人

現在までに集まった金額 2,338,564円

残り日数 0日

このプロジェクトは、目標金額1,500,000円を達成し、2019年11月05日23:59に終了しました。

シェア ツイート サイトにほんブログ村

この本は、僕らが住む世界を変えるための招待状。単に消費されるだけの商品とは違って、共感的な行動を引き起こすためのツールとして創られています。パーマカルチャーとは、持

公共性とニーズをとらえる 文化や考えを広めることが大切

モーションギャラリーを活用して達成した「アーバンパーマカルチャー」という文化を広めるための書籍の出版、制作費用を

調達した事例を紹介し、パーマカルチャーとは、持続可能な生活や文化、社会のシステムをデザインすることです。実行者であるソーヤー海さんは、都会でも実行できるようにと書籍化を試みました。このクラウドファンディングで良かったことは、リターンを安売りしなかったことです。書籍化されたものを少し早く手にいれることができることや、ソーヤーさんのおすすめ、ベランダで育てるのに適する野菜の種をプレゼントするなどをリターンにしました。パーマカルチャーという文化を、いかに体験してもらえるかを考えられています。「安いから」という理由で支援してもらおうとリピーター的なファンにはならず一過性として終わってしまいます。ソーヤーさんの取り組みは、共感の輪を広げる良い事例だったと思います。

都会からはじまる新しい生き方のデザイン。共生革命家、ソーヤー海によるアーバンパーマカルチャーガイド出版します!

京都・出町柳エリアの商店街に新しいカルチャー発信地を。映画×本屋×カフェの融合ビル「出町座」

コロンブス 724人

現在までに集まった金額 9,413,645円

残り日数 0日

このプロジェクトは、目標金額3,000,000円を達成し、2017年8月31日23:59に終了しました。

シェア ツイート サイトにほんブログ村

未来のまちに投資

次に紹介するのが京都の出町柳にミニシアターをつくるプロジェクトです。このプロジェクトを応援してくれた人を3つに分けると、次のようになります。

- ①【出町柳に住む人】自分が住むまちに映画館ができると嬉しいから支援。
- ②【ミニシアターファン】地方の映画館は大切というファンからの支援。
- ③【未来への投資者】学生時代など、過去に住んでいた人が多い地域。学生時代に、文化の拠点である映画館があったならどれだけ豊かであったか、今の学生にとっても大切だと共感した人たちからの支援。

特徴的なのは③です。商業圏というとその施設から半径何km圏内だとか、そこから売上を考える2D的な考えですが、ここに出町柳というまちが積み重ねてきた文化が加わることで3Dな見方ができるようになりました。コンセプトを伝えることで共感を生み、支援者を増やすことができました。

京都・出町柳エリアの商店街に新しいカルチャー発信地を。映画×本屋×カフェの融合ビル「出町座」